

	<p>横浜市地域まちづくり推進委員会表彰部会 横浜市都市美対策審議会表彰広報部会 合同部会</p>
議題	<p>1 座長の決定について 2 第5回横浜・人・まち・デザイン賞の進め方について 3 その他</p>
日時	平成22年1月28日(木) 10時から12時まで
開催場所	松村ビル別館 502会議室
出席者(敬称略)	<p>地域まちづくり推進委員会表彰部会委員：高見沢実(部会長)、佐谷和江、並木直美、山田浩和、 吉田洋子 都市美対策審議会表彰広報部会委員：金子修司(部会長)、篠崎次男、山崎洋子、吉田鋼市</p>
欠席者(敬称略)	欠席：都市美対策審議会委員 佐々木葉
開催形態	公開(傍聴者0名)
決定事項	<p>議題1：座長に地域まちづくり推進委員会表彰部会の高見沢実氏を選出した。 議題2：選考のスケジュール、選考の方法、広報の内容について了承、募集リーフレットについては過去の表彰作品の場所や活動内容がわかるように記載することを検討する。 平成23年度に予定している表彰式の方式については今後の部会で検討していく。</p>
議 事	<p>・委員の紹介 事務局より各委員の紹介あり</p> <p>1 座長の決定について ○事務局 合同部会におきましては、これまで交互に持ち回りとしてまいりました。今回の座長は、地域まちづくり推進委員会表彰部会の高見沢部会長にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。 ○委員 異議なし</p> <p>2 第5回横浜・人・まち・デザイン賞の進め方について ■事務局から資料1～4について説明を行った。 <u>意見</u></p> <p>○高見沢座長 それでは、それぞれ部会を開いてご議論いただいているかとは思いますが、このような形で一緒になるのは初めてですし、前回の経緯をご存じない方もおられるかもしれませんので、素朴な質問でも結構ですから、自由に論点を出していただければと思います。 補足的にお聞きしたいのですが、期間を縮めたとか、いろいろと変更点があって、その理由がわかるものもありますが、理由がわからないところもあったので、その辺をもう少し、全体の説明をしていただけますか。 つまり、募集が少ないので増やしたいならば、論理的には期間を延長するというのが普通かと思うのですが、逆行しているので、特段の理由があったのではないかと思います。</p> <p>○事務局 資料3が全体のスケジュールでございますけれども、やはり3カ月といいますと非常に間延びした期間となってしまいます。過去の例をみますと、やはりどうしても最終日ごろにかたまって出てくるという状況もありますので、期間は余り応募件数には関係なく、むしろ集中的に広報したほうが良いというようなことで、4月からだったものを5月からにしたということでございます。 それから、前は応募状況の報告が10月でした。今回は7月としています。前回の報告時期を考えると、応募を受けてから情報提供するなり作業を始めるのにやや間延びしていました。また、地域まちづくりのほうはイベント等が、かなりあるのですが、前は10月から活動調査に入ったということで、夏場のイベント等の調査ができないといったことがありまし</p>

た。これを前倒ししたということでございます。

まちなみ景観のほうはほぼ同じスケジュールですが、最後の都市美対策審議会が、前は4月でした。4月20日ということで年度を越えてしまったのですが、委員の任期とかいろいろなこともございますので、やはり年度内におさめたいということがありました。地域まちづくり部門の最終表彰部会は、3月でした。これもやはり年度内というようなことでいいますと、1月に処理するというので、その結果として後の流れが、7月だったものを6月にすることができるということでございます。

○高見沢座長 7月だった表彰式を6月にするというところは、あまり意味はないのではないですか。

○事務局 あと、国交省のまちづくり月間が6月になっておりますので、そこに合わせたほうがいいのではないかという考えもありました。

○高見沢座長 わかりました。

ついでに、資料6が最初を2カ月に縮めたのと絡んでいると思うので、これも説明してもらったほうがいいのではないですか。このように集中して広報するとかなり応募件数が上がるはずである、そういうことですね。

■事務局から資料6について説明を行った。

○高見沢座長 これも含めまして、全体についてご審議をお願いいたします。

地域まちづくりの選考方法ですが、最後のほうの選考の細かな規定までは、「今年もこれで行きましょう」とまでは決めていないのではないかと思います。

○事務局 選考方法③は、一応目安として記述しましたが、応募状況を見て、先生方で話し合っていたのであればよろしいかと思います。

○高見沢座長 前回の部会では、1点2点でつけるという方式も決めていましたか。

○事務局 はい、加点方式としていました。

○高見沢座長 要は、自分の中で5件程度選ぶということですね。

○事務局 そういことです。

○金子部会長 まちなみ景観部門は、実は今まで余り細かい規定をイメージしていなかったような気がします。今日初めて1点、2点なんていうのは、「そうか、そういう方法もあるな」と思いました。合議しながら点を入れて、その集計でかなり集約できたという経過があったので、そのように審査していました。

○事務局 細かく点数を付ける方式はとっていません。「これを推薦」とピックアップしたものの集計という形で、それ以降は合議ということでした。

○金子部会長 そうですね。そこはそれぞれの部会の特徴かもしれませんので、よろしいかと思います。

○高見沢座長 我々の場合は1回きりなので、さらに追い込む方法をとらないとなかなか決まらないということですね。

○金子部会長 一方で、まちなみ景観部門では、できるだけ多くの物件を見るためにはどうしたらよいかということに論議が集中しました。20件ぐらいの候補が残ったときに、それを全員が同じ目で見るとか、分かれて見るとか、とにかく1日で見ようということなのですが、やはり見ないことには責任を持って話し合いができないということです。これは、まだこれからのテーマになってこようかと思います。

○並木委員 まちなみ景観部門のほうで、第4回に、荒井沢市民の森というそれまでと違ったジャンルのものが出てきて、それが表彰を受けた経緯があります。今回の説明で「まちなみ、建築物等」というところを見ますと、ハードな、人工的なものに絞るようなニュアンスを私は感じるのですが、例えば荒井沢市民の森のようなものが入ってきた場合は、どのように取り扱うのでしょうか。

もう一つ、資料4の表の右下に①から⑥まである中で、③歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているものという文言を見ますと、自然については、人工的、都市的なものとセットでよいときには評価するというような、自然そのものは評価しないと受けとれます。それから、④の横浜らしさの演出。この「横浜らしさ」とい

う言葉は、もうさんざん、何年も何年も議論していて、いまだに明確な答えは出ておりませんが、この「横浜らしさ」が明治時代のイメージを指しているのか。これだけの都市なのに一団のまとまりある大きな緑地が市内にたくさんあることが横浜らしいというふうに私などは考えるのですが、その辺は、都市美対策審議会の部会の方たちはどのようにお考えでしょうか。

○金子部会長 今、並木委員がおっしゃった前回の事例は、やはり普段気付かない、でも行ってみて、みんな感動して「これは素晴らしい」こういう気持ちで賞になったということです。まちなみと建築物等、この「等」という部分をもう少し広く解釈して、自然景観的なものも当然中に入ってくるというイメージを持っています。

○山崎委員 「横浜らしさ」というのは、今、おっしゃった両方だと思います。歴史もあるし、それから緑が結構多い、両方の意味なのだろうと私は解釈しています。

自然との調和というのは、荒井沢などは自然のままにほうっておいたらあのようになったのではなくて、かなり手を加えてつくりあげたものですね。だから、こちらで表彰してもよいのではないかと思います。

ただ、この間、議論にもなりましたが、富士山がよく見えるとか、そういうものは眺望なのであてはまらないと考えます。

○高見沢座長 並木委員のご趣旨は、ぜひそういうものも取り上げるべきで、「建築物等」という言い方だけで入るだろうかというご心配ですね。

基準のところで読めるようになっていたので、既にもう受賞もしているし、問題ない、そういうことでよろしいですね。

○吉田（洋）委員 1つは、まちなみ景観部門についてのご質問で、選考基準の⑤に都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取組が調和しているものとありますが、素敵な建物であっても、実際にさまざまな方が使う場合に、例えば車いす用の車路があまりいい場所にないといったことは結構見受けられるし、逆に、あまり福祉、福祉と言い過ぎると、すごく設計が狭められてしまって豊かな空間がつかれないという矛盾があって、そこをうまく工夫したところが表彰されてほしいと思います。

そういう意味で、どうもこの人・まち・デザイン賞のPRをするときに、いわゆる「街」のまちづくり関係の表彰だということで、なかなか違った分野の方たちが関心を持ってもらえないところがあるので、そういうところへ、もうちょっとPRするようなことが考えられないか。

「とてもいいのだけれども、ちょっとそこが」というのが、どうも福祉関係ではあるような気がして、かなり利用者の方というか、いわゆるこれから建物のデザイン自身が親しまれるとか、使いやすいといったこともかなり要素になると思いますので、そういうところが表彰されていて「なるほど、ああいう建物が横浜で推奨されているのだな」というのがわかってくると、すごくデザインをする人たちも励みになるのかなと思ったので、その辺の工夫がちょっと欲しいと思います。

それから、今までこういう感じでの実際の事例が出てきているかどうかを知りたいと思います。

2つ目に、今の話と絡んで、地域まちづくり部門もまちなみ景観部門も一緒ですが、役所の中で少し横連携するようなPRをしていただきたいと思っています。

それから、各区に区民活動支援センターがありますけれども、ああいうところにもちょっと声を、あるいは営業に回るというか、そういうことをして、そこからも掘り起こしをやっていただいたらどうかと思います。というのは、そういうことに関心を持つことで、区民活動支援センターのスタッフに「そういうことを普段も考えなければいけないのだ」というまちづくりの芽が出る可能性もあると思うので、そんなところをお願いしたいと思います。

○金子部会長 福祉の取り組みに関係してということでは、特段、前回それを表に出して審査、評価したというイメージは、個人的には余り持っていませんでした。今、いいご指摘をいただいたと思いますが、逆にもっと、まさにノーマライゼーションというか、普通に見ていて、例えば多少段差があってもうまく処理できているとか、そういう目で見えていたのではないかとい

う気がいたします。

ですから、特に取り組みを強調しているというようなことではなかったかと思います。

○篠崎委員 今の件にも関係するかもしれませんが、まちづくりの活動が形になるということがあると思います。これは地域まちづくり部門でいろいろな活動をされている、例えば福祉のいろいろな活動をされている、その結果として何か一つの形をつくりましたというような応募があったときに、実はその形だけを見たのでは判断できないですね。

ですからそのあたりは、そういう活動を含めた情報を提供していただけると、我々としても判断しやすいような気がいたします。

○高見沢座長 どんなのですかね。形にあらわれた福祉配慮の優れた景観というのは、何か事例が思い浮かびませんか。

○吉田（洋）委員 例えば公共施設や何かでも、とってつけたように「車路があればいいでしょう」という形で端のほうにある場合が多いです。でももっと、みんなが使いやすいということは、例えば乳母車の人だってそこは通りやすいというふうにと考えると、多分、ユニバーサルデザインというか、そういうことになってくるのだと思います。多くの人が使いやすいということは、高齢者にとってもいいということだと思つので、そういうデザインを評価する。だから、確かに金子部会長が言われたように、この⑤の言葉自身が本当に今の時代としていいのかなというのは、ちょっと疑問を感じます。もう福祉ではなくて、本当にみんなが使いやすいとか、親しめるとか、そういうことかなという気がします。

○高見沢座長 これだけで選ばれるというよりも、これも含めていいものを選ぶという感じでしょうか。

○吉田（洋）委員 そうですね。

○金子部会長 例えば非常にいいという評価になっても、福祉に対して全く目が向いていないではないかということでネガティブになるということも、1つあるでしょうね。これを表彰してしまつていいかという論議が出る可能性も、実はあるかもしれない。

逆に活動の実践が形になって「あ、すごいね」というのが、荒井沢市民の森の市民活動バージョンみたいなものです。福祉が取り上げられたらいいなどは思います。可能性はありますよね。

○吉田（洋）委員 東京都区内ですと、やはり再整備というか、建て直しみたいなことが出てきているので、そういうみんなの意見を入れた上でつくられた建物も出てきていると思います。

それから、日本だけではなくて、海外でのコンペティション等でもかなりその辺の評価が変わってきている、そんな話も聞いているので、少しそういう視野も必要なのかなと思います。

○高見沢座長 行政へのお願いもございましたけれども、いかがでしょうか。

○事務局 区の支援センターにも行きますし、直接我々が区役所にも行きます。それは当然ながら連携して、一緒にやっていきます。

○高見沢座長 具体的には、資料6の募集リーフレット・ポスター配付のところに「区役所、駅PRボックス等」とあって、あえて書くとしたら「区民活動支援センター等」と忘れないように入れておく。

○事務局 そうですね。

○高見沢座長 忘れずに、お願いします。

○金子部会長 新たに市庁舎1階の市民広場で、企画展でPRしながら募集をしようということですが、これは結構大事で、だれがどんな企画で、どうやってやるのだろうかと思います。

○事務局 基本的には「今までこういったものが表彰されていますよ」という、この賞そのものをまず知ってもらうことが必要なので、なるべく、多くの点数を展示したいと思います。過去のを全部つくと50枚ぐらいのパネルになってきます。まずそういうものを展示して、そして第5回の募集の案内とか、そういうことをする。まずそこが基本にあって、あとそこにどういう演出を加えるかというところは、まだ十分検討できていませんけれども、展示スペースはかなり人通りが多くて、そこで具体的に手にとって、場合によってはそこで書いて投函できるとか、そういうことができれば、それだけでもかなり、今までよりは違うと思います。実際に過去に出たものを写真で見ながら、「こういうものがあるなら、これもいいのではない

か」というふうにも思ってもらえる、そこは最低限、実施したいと思っています。

- 金子部会長 あとは、地域まちづくりで、アクティビティの人たちに声をかけて、その人たちに見に来てもらうことで人はたくさん呼べますよね。
- 高見沢座長 この企画展の中で、例えばポスターセッションではないけれども、来てもらって発表してもらうとかですか。
- 金子部会長 ええ、そのくらいまでできたらよいと思います。そうすると新聞記事になりますよね。
- 高見沢座長 これは何日間ぐらい行うのでしょうか。
- 事務局 2週間です。
- 高見沢座長 実質10日間ですか。
6団体あるから、10分の6日はどこかの団体が来てPRするとか。
- 事務局 あの場合は音楽の演奏もします。ですからその関係で、賑やかなことができるかどうか、その辺も含めて検討します。
- 高見沢座長 目標は、とりあえず応募数の増加ですね。
- 金子部会長 知ってもらわないといけないわけですからね。それが両方の部会で共通のテーマだったと思います。
- 高見沢座長 そうですね。
- 山田委員 この広報の例で、今、出ているのは主に情報を発信して、それに興味ある人が拾い上げて自主的に応募するというのがメインだと思いますが、それプラス、何か推薦というか、近い団体でというか、あるいは先ほど案が出た区民活動支援センターなどの目線から見て「ここが対象になるような活動をしている」というところがあれば声かけというか、推薦というか、していただけるような仕組みがあると、こういった情報を知らない団体にも届きやすいかなと思います。
- 事務局 毎年、口コミとか、そういういろいろなチャンネルを通じて、例えばシティガイド等で情報を流してもらって呼びかけてもらうとか、その辺は引き続き行います。逆に「こういうところに呼びかけていったらいいのではないか」ということがあったら、事務局のほうにいただければありがたいと思います。
- 高見沢座長 単なる広報という概念だけでは、なかなか出してくれないですよ。メリットがないのですかね。
- 並木委員 賞品をグレードアップしようというような、やはりそれは魅力的ですよ。
- 山崎委員 景観のほうではなくて、まちづくりのほうは特に、何かメリットがほしいですよ。景観は「美しいね」とみんなが見に来ればいいのですけれども、まちづくりはみんな苦労しているし、賞品というより、もう少し何かその活動をしやすいようなものがあつたほうがいいですよ。賞として。
- 佐谷委員 やはり「この賞をもらった」ということが発信されているといいと思います。今、多分このリーフレットで発信しているのですけれども、これを見る人がほとんどいないということで、そのところでこの価値を高めていくというか、自分たちが賞をもらったということがオーソライズされているというようなことを、もうちょっと発信すると、逆に応募も多くなるのではないかと思います。
- 山崎委員 まちづくりの会員がそれで増えてくれると、ありがたいというのもありますよね。
- 佐谷委員 そうですね。
- 高見沢座長 地域まちづくり部門独自の課題は、我々のほうで引き取って検討いたしますが、全体としても、やはりメリットというものが無いとね。
- 金子部会長 メリットは絶対必要ですよ。
1つ我々の中で出たのは、例えば設計する人間にとってはある種のインセンティブで、プロポーザルとか、そういうコンペとかのときに、そういう賞をもらったことが大きなインセンティブになる、それを使えるようにしてほしいといった話が出ています。
それから、将来的には本みたいなものをつくってまとめたという意見や、「まちなみ景観賞を受賞しました」というプレートをつくりたいといった意見があります。
- 高見沢座長 景観は、今までやってこなかったのですか。

○事務局 昭和60年から景観賞という前身の賞を行っていますけれども、記念の楯だったのです。これは直接表彰するのが事業者とか設計者とか、そういうことになっているので、それぞれに副賞みたいな形で楯を贈っていました。現地の建物等に設置するものは当初からありません。

○高見沢座長 ではその辺、両部門の共通課題は、特に表彰された方のメリットになるようなことを考えることですね。

他のご意見もお聞きしたいのですが、これだけはクリアしないといけない課題が2つあります。振り分けのところで、去年、景観からこちらにいただいたものが1件ありました。それがどうしてだったかということも含めて、今回、このプロセスでいくと7月に振り分けるといふか、基本的にはそれぞれに来たものをそれぞれの部会で審議するのですが、そうではなくて合同部会で審議しなくてはならないようなことが起こりそうな場合にどうなるかという具体的なプロセスについて、説明していただきたい。

それから、最後のところですが、表彰の重複の件です。昨年度はたまたま重複があったのですが、資料2の地域まちづくりの②、日本語としては何か煮え切らない文章なのですが、「初めから両部門での選考・表彰をしないと決めないこととしたい。」どちらにもとれるという感じですが、要は、重複はいけないとはしたくない。だけれども、前回の場合、あまりにも同じような感じでプレゼンテーションもしてしまったので、よくなかった。現実的なプロセスで考えますと、少なくともどういうものが候補に挙がっているかを両部会で情報共有し、それに左右されることはないと思いますが、もし同じになりそうな場合には、差別化といふか、市民の方が見てもおかしくないようにしないといいかなと思うのですが、それがどのように達成し得るか、あるいは別に考えなくてもいいのかという点について、ご意見をいただきたいと思います。

○事務局 まず振り分けですが、昨年は、横浜動物の森公園のところの活動が景観部門に応募されましたが、それを事務局の判断で、これは活動で審議いただいたほうがよろしいのではないかということで部会に諮りまして、それで部門変更ということが1件ございました。

○高見沢座長 部会には諮ったのですかね。合同部会ですか。

○事務局 合同部会です。

○高見沢座長 両方で「よい」と言わないと、こうならないわけですね。

○事務局 はい。合同部会に諮りまして、私どもの案が通ったというのが1件ございました。

今回、合同部会は原則開催しませんので、そういうことはなくて、錯誤以外は本人の意思を尊重して、そのままずっとその部門で通していきます。これは要するに、もし部門変更するとしたら相当内容を詰めた上で、調査票を作成した段階ぐらいでないと恐らく適切な判断はできないはずです。基本的には、むしろ増えるようなことはあり得ます。「もしかして、これは活動ではないですか」みたいにご本人に確認しまして、景観でも一応調査して、活動のほうでも調査するといったことで増えることはあると思いますけれども、こちらをやめてこちらにするということは、今回はやらない。そんな違いがあるかと思えます。

○高見沢座長 そうすると、もしそれがすごくよかった場合には、ますます重複の可能性が増えるということですか。

○事務局 そこは何とも言えませんが、評価の中で、それが景観要素として見て素晴らしいということであれば、景観として表彰対象になるわけですし、地域まちづくり部門においても同様です。

○高見沢座長 ということは、資料3の、7月上旬の箱の中の説明文が違っているということですか。振り分けはしないわけですね。

○事務局 例えば、はがきが2種類ございますので、明らかに上のはがきを出すべきだったのではないかと、これははがきを間違えたのではないかと、景観のつもりが地域まちづくりのはがきを使ってしまったのではないかとといったことが明らかに考えられる場合は、ご本人に確認して、それは入れかえるということです。

○高見沢座長 ということは、これは「両部会委員へ応募状況報告」だから、正確な文章にすると「明らかに本人の間違いの場合には、本人に問い合わせた上、出すべき部門を明確にし、その上で報告する」ということですね。

○事務局 資料4ではしっかり表現しています。

- 高見沢座長 事務局では振り分けはしないのではないですか。意思を確認して、振り分けするというよりも、正しい情報に基づいて作業するだけですよ。
- 山崎委員 振り分けではないですね。
- 篠崎委員 錯誤を確認して、それを改めるということですね。
- 高見沢座長 ということは、今のような方法をとれば、先ほどおっしゃったように両方で事務局が調査しなければいけないのは、ゼロになるのではないですか。
- 本当は、そのほうがいいですよ。入り口のところでしっかり分類したほうが。しかも本人の意思で行ったほうがよいですね。
- 事務局 ただ、他薦と自薦があつたりして、他薦の中で景観として自薦の中で活動とした場合、他薦のほうで「私は景観として見ていますよ」と言われれば、それはそのままルートにのって通ってくると思います。自薦のほうは「活動だよ」と言われれば、それは本人の意思を確認して、活動の流れとしていく。結果的に両部門ということもあります。
- 高見沢座長 ただ、その場合でも、振り分けはしていませんよね。
- 事務局 振り分けは、していません。
- 高見沢座長 これはちょっと変えたほうがいいですね。
- 事務局 では、「振り分け」という表現を変えたほうがよいでしょうか。
- 高見沢座長 では、事務局が勝手に判断して「動物園は活動じゃないか」ということはやめようということですね。
- 事務局 行いません。
- 高見沢座長 それはそれでよろしいですね。
- そうすると、残るは最後の段階での重複をどうするかですね。
- 事務局 したがいまして、この流れでいきますと、応募のものを調査して、審査する。審査の時期的にいきますと、表彰広報部会のほうが早く実施するということですので、そこはまさにまちなみ景観の視点から審査される。今回、前回と違いますのは、応募状況及び審査状況を相互にきっちり共有しましょうというのがありますので、地域まちづくり部門としましては、その状況を踏まえて総合的に判断する。そこであえて地域まちづくりとしても表彰すべきであるということであれば、当然にダブルでも、地域まちづくりの皆様がそれでいいのだということであれば当然ながら残るということです。なお、景観部門に戻して、それでいいかということをやらなければならないかということが理論上、あり得るのですがいかがでしょうか。
- 高見沢座長 理論上というよりも、實際上、最後1月に両方、最終選考しますよね。ここに至らないとわからないわけだけれども、まさにこの1月何日の何時からか、どちらが早くなるのかということによって決まってくるね。
- 事務局 全く同時にはできません。
- 高見沢座長 今の時点では、どちらが先かはわからないわけですね。
- 事務局 はい。必ずどちらかが決めて、それを踏まえてどちらかが判断する。その結果をもう一回戻すかということ、我々事務局の議論の中では、戻しても結論は変わらないのではないかと思います。
- 高見沢座長 戻す、戻さないというよりも、現実的には先にあった部会で決めるわけですよ。「こちらの部会、こうでしたよ」と。それを見るか見ないかは、次の部門の判断なのだけれども、そこで最終的に決めるということですね。
- 事務局 例えば、もうまちづくりで選考されたのだから、景観からは落として、惜しくも次点になったものを上げようといったことも、あり得ますが、恐らくそういうことはないだろう、そういうことはしないだろうというのが我々の考えです。
- 前回はプレゼンテーションが、私どもも失敗したと思っております、全くバラバラにスライドを流して、作品集も別のところであって、両方が表彰されたことの話がなかったのです。
- 高見沢座長 では、情報をどう見るかはそれぞれの部門に任せることとして、とりあえず相互に報告し合うというか、提供し合うということはよろしいでしょうか。
- 山崎委員 今、高見沢先生がおっしゃった資料2の②のわかりにくい文章を書き直すと、どうなるので

すか。

○事務局 では、「あり得る」という形で直すということで、いかがですか。

○山崎委員 そうですね。否定ではなくて可能性の文章のほうがよいですね。

○吉田(洋)委員 私がちょっと思っていることがあるのですがけれども、横浜・人・まち・デザイン賞というのを何のためにやるかという話になると、確かに表彰された方が励みになって、今後、何かインセンティブがあるというのも大事なことですけれども、やはり横浜全体で地域まちづくりとか、まちなみ景観の水準が上がっていくことを期待してこれをやっているの、最後の発表会に表彰される方だけが来るという方式は、ちょっと寂しいなと思っております、アカデミー賞方式を提案したいのです。

というのは、資料3をごらんいただきますと、先に表彰対象が決定、公表されてしまうのですが、この最後の表彰式を発表会にして、昨年も、地域まちづくり部門は36件出て6件になった、まちなみ景観部門は63通55件の中から選ばれたわけですね。その方たちが来て途中で発表して市長さんが表彰していくというスタイルはできないものではないでしょうか。

だから人・まち・デザイン賞アカデミー賞方式というのかな、それをご提案したいと思えます。そうすると、ときどきしながら皆さん来るでしょう。

○山崎委員 おもしろいですね。ショーとして表彰式が行われます。

○吉田(洋)委員 公開審査は大変ですから、審査は終わっているけれども、発表だけを公開の場で行う。それまでは隠しておく。

○事務局 これは自薦、他薦問わずということで、最終的に表彰されるのは、その事業をやった人、施工者とか活動している人なのですが、その本人の意思とは関係なく推薦されて、審査されていくというところがあって、自分では応募したつもりがないのに呼び出されて、その場に行ったらはずれでしたというような状況もその方式だとあり得るので、いろいろ考えないといけないところがあると思います。

○事務局 まちづくり部門などは、やはり地域の応援団が大勢一緒に来る。要するに、もう表彰が決まっていますから一緒に来る、そういう盛り上がりもあるわけですがけれども、もし何も発表されていなければ、実際いらっしゃるかどうかもわからないわけですね。そういうこともありますから、折衷案としては、事前に記者発表しない。まさにその結果を翌日、記者発表するとか、そういう形であれば多少盛り上がりはあると思いますが、現実論としては難しいと思えます。

○山崎委員 他薦の場合、推薦されている人に「おたくがつくったものが推薦されていますよ」と知らせるのですか。

○事務局 まちなみ景観部門の場合は、選考されたという段階になって初めてお知らせしますが、場合によっては、いろいろな審査のための資料を入手するために、直接その所有者の方等にコンタクトをとって集める場合もあります。

○山崎委員 そのときに「いや、要らない」という人もいるわけですか。

○事務局 今までにそういう話は聞いていません。「うちがもらってもいいのですか」といった反応はありました。

○山崎委員 そうしたら、ある種の期待というか、うれしいのがあるのだから、別にさほど迷惑ではないということですね。最初から嫌な人は、その時点で嫌だと、「うちは推薦されても要りませんから」と言うでしょう。そうしたらそれで、そんなに嫌ではないのではないかと思います。

○吉田(洋)委員 事務量が変に増えてしまうと申しわけないのですがけれども、何かうまくその辺の、当事者に対する確認は入れていただいてこの審査をするみたいな方法にできないでしょうか。

○高見沢座長 予算とか場所は大丈夫ですか。

○事務局 再来年度ですから、予算的には何も決められない状況です。

○高見沢座長 今の感じだと、200~300人来そうな感じですよ。

○事務局 会場はありますけれども、厳しいと思います。

○山崎委員 でも、最初からあきらめてしまわないで、何かおもしろくする工夫がほしいですね。

○事務局 例えば10件とか20件に絞って、その中から会場で5件が選ばれるとかなら考えられますが、だれでも来る形にしたなら、だれも来ないということもあり得ます。

- 吉田（洋）委員 いろいろなことが絡みますが、実際に、ここにノミネートされただけでも簡単な賞を渡してもいいのではないかと考えています。
- 金子部会長 一次選考を通過したときの、20物件ぐらいにするということですか。
- 吉田（洋）委員 そうそう。それぐらいはちゃんと渡すようなつもりで、全部市長さんが表彰するのは時間的に無理だから、何か奨励賞みたいなものをもらえるようにすれば来た甲斐もあると思います。
- 事務局 地域まちづくりは2段階選考をしませんので、まさに1回きりなわけです。
- 高見沢座長 でも、1票でも入ったところにまで広げれば、それが一次と考えることもできますね。
いずれにしても、この場で詰めるわけにもいかないの、考えとしては担当者を決めて考えていきましょう。イベント担当と言いたいところですが、私にそんな権限はないので、それぞれ皆さん、やはり横浜市全体のレベルアップのために知恵を絞っていただきたいと思います。
- 山崎委員 最初から「できない」と言ってしまうこともないのではないかと考えています。
- 事務局 先ほど吉田委員がおっしゃったように、私どももこの前、申し上げたつもりなのですが、選ばれた方だけでクローズするのではなくて、一般の、外部の方もこれを知って、よりよいまちづくりをしていただきたいという思いからすれば、折衷案みたいなものも模索できればと思います。
ぜひまた部会の中でご議論いただきたいと思います。
- 高見沢座長 地域まちづくりのほうでずっとやっていて、これの一番のネックは職員の疲労と予算ではないかと思うのです。ですから皆さんのプラスαの知恵というか、企業の協賛だとか、運営側の人手とか、それを出し合わないこれはできないかなという気もしますので、ぜひそのようなものを含めて検討していきたいと思います。
他に、いかがでしょうか。
では、一個一個押さえていきますと、今日の議題のスケジュールはこれでよいか。最後の決定・公表、これを今日の時点でどう決めたかということだと思っていますが、どうでしょうか。
- 事務局 発表の仕方は、ペンディングということでお願いします。
- 高見沢座長 時期的に、表彰式は、このまま6月でいければと思います。
- 事務局 はい。
- 高見沢座長 では、そこだけ若干原案と変わっている。
あと、振り分け等の文言については、対外的に言うときは、正確な表現に直す。
あとは大体よろしいでしょうか。スケジュールについてはよろしいですね。
それから、もう一つ残ってましたね。募集要項のご説明をお願いします。
- 事務局から資料5について説明を行った。
- 高見沢座長 今日は12時までですが、今、ご説明いただいたこれを検討することの他には、もう大体議論は終わったということでよろしいですね。
では、資料5についてご意見いただきたいと思います。
- 佐谷委員 7ページの地域まちづくり部門のところ、今までと表現が異なるから難しいかもしれませんが、意見があります。
前に部会でも言ったのですが、団体名をどこかに入れることができないかと思っていました。例えば第4回だけ見ても、これだと何だかよくわからないという。だから、この括弧書きのところを団体名に変えとか、そういうことができないかなと思います。
- 高見沢座長 第3回目までは、大体見ればわかるという感じでしょうか。
- 佐谷委員 例えば第3回の一番下などは何だかよくわからないという。活動はわかるのですけれども、これだけではどこがやっているかがわからない。
- 高見沢座長 何か工夫の余地はありますか。行数がもうこれ以上書けないからだめだといった感じですか。

- 金子部会長 イメージとしては、前回の応募リーフレットのこの写真のようになるのですか。
- 事務局 そうです。
- 高見沢座長 文字が小さくなるわけですね。そうすれば、入れられないことはない。
- 金子部会長 やはり活動主体は入ったほうがいい。
- 高見沢座長 景観のほうは、もうそのものだから変えようがないのですね。
一例だけ考えるとすると、何が何になりますか。
- 事務局 1番目の「まちづくりのルールを作成」というのは、大口通り地区まちづくり委員会となります。
- 11番の港南区のものは3者が表彰されていまして、イータウン、横浜港南台商店会、まちづくりフォーラム港南というようなこと。あと、8番の災害に強いまちづくりでいきますと、支援した団体もあわせて表彰していますので、表彰者というようなことでいくと、ちょっと字数が多くなる可能性があります。そこを入れたほうがよろしいでしょうか。
- あと、その場合、第1回からも入れていくわけですよね。
- 顕彰と表彰ということで行きますと、要するに、褒めたたえるべき活動を載せたということで、表彰する団体を載せたわけではないというスタンスで出しているのです。
- 委員がご指摘のとおり、非常にわかりにくいものをつくってしまったという反省はあります。
- 高見沢座長 これは、この場でないともう決められないわけですね。
- 事務局 はい。
- 高見沢座長 そうしましたら、今のような趣旨は、この合同部会としては賛同する、ただ、実際にどうするということは事務局と、こちらの地域まちづくり部門で調整の上、決定します。印刷までにはまだ2カ月くらいありますね。
- 吉田（洋）委員 折衷案のご提案があるのですけれども、よろしいですか。
- 実際の団体名まで書くと、パンフレットとしては、きついので、その団体がわかるような地名等をきちんと入れるというのはどうですか。例えば、第3回の都市防災の研究・提言・知識の普及活動などは、だれが表彰されたか全然わかりませんよね。何かその言葉を入れたらどうかと思ったのです。
- 高見沢座長 その辺も含めて、この部会としてはおおむね趣旨は賛同するので、詰めはやってくれというところでよろしいですか。
- 吉田（洋）委員 そうですね。
- 高見沢座長 その場合に、必ずしも第1回まで溯らなければいけないことはなくて、場合によっては写真のキャプションで工夫するとか、いろいろあり得るのでね、デザインも含めて、あるいは景観部門とのバランスも含めて検討して、落ち着いたよい方法で、かつ趣旨が生かせる方法を模索するというぐらいでどうでしょうか。
- 委員 異議なし
- 高見沢座長 他に、いかがでしょうか。
- 山崎委員 応募方法のところに「おひとり様何件でもご応募できますが」と書いてありますね。こういうものは「おひとり様」とか言わなければいけないのですか。「1人何件でも」でいいのではないかと思います。
- 金子部会長 「応募はがき1枚につき1件の記入とし、何件でも応募できます」とか言えばいいですね。
- 高見沢座長 次の「選考の過程の中で応募部門が変更される場合があります」というのは、何か事務局が勝手にするみたいなので、さっきのような議論だと、ちょっと表現が違いますよね。
- 金子部会長 要らない。
- 高見沢座長 まちなみ景観部門のほうでは「最終的イメージをこうしてくれ」とか、何かありませんか。
- 金子部会長 6ページの応募要件で「横浜市内に存する」という表現にするのですか。「横浜市内に存在する」とかがよろしいのではないですか。
- 事務局 要は、市内にあるということです。
- 篠崎委員 「横浜市内にある」でいいのではないですか。
- 並木委員 丁寧に言えば「存在する」。「横浜市内の」でいいのではないですか。

	<p>○高見沢座長 もしこの会議終了後、迷いがありましたら、景観部門のほうに言ってください。 あと全体を通して、より客観的な面も含めて何かございましたら、お出してください。 事務局のほうからは、よろしいですか。</p> <p>○事務局 特にございませぬ。</p> <p>○高見沢座長 例えば、先ほどの人手とか、すごく気になるのだけれども、どうなのですか。やろうと思えば幾らでもイベントできるのですか。</p> <p>○事務局 1階のホールの件ですか、それとも表彰式の件ですか。</p> <p>○高見沢座長 表彰式が200～300人となると、結構大変な努力をしないとイケないと思います。</p> <p>○事務局 アカデミー賞スタイルの話とは別に、それとあわせてイベントなりフォーラムなり、それは可能だと思います。</p> <p>○高見沢座長 やるとしたら、このためだけにやるというよりも、より戦略的に、そこをどう活用するかということですよ。</p> <p>○事務局 今日こういう貴重なご意見をいただきましたから、それも含めて考える必要があると思っています。シンポジウムを入れてやるような方法もあります。予算の関係もあります。</p> <p>○高見沢座長 でも、予算もいい内容であればつくわけですよ。</p> <p>○事務局 はい。</p> <p>○高見沢座長 ほかに何かございませんでしょうか。 それでは、ご協力どうもありがとうございました。</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・合同部会 次第 ・委員名簿 ・横浜まちづくり顕彰事業の推移（参考） ・第5回横浜・人・まち・デザイン賞（経過）について（資料－1） ・各部会で出された主な意見（資料－2） ・スケジュール（資料－3） ・第5回横浜・人・まち・デザイン賞（選考の流れ）について（資料－4） ・募集リーフレット案（資料－5） ・第5回横浜・人・まち・デザイン賞の広報について（資料－6）
特記事項	なし